

史跡通信

令和5(2023)年度発掘調査の現地見学会を実施します

史跡白老仙台藩陣屋跡の第2次環境整備事業に向け、令和4(2022)年度より着手している発掘調査について、今年も発掘現場の見学会を行います。

これまでの調査では、安政3(1856)年当時に造られた土塁を外曲輪で確認し、さらに史跡南側の虎口に沿って造られた堀割と思われる遺構を確認できました。

これらの発見によって何が分かり、何が今後の整備の課題になるか、仙台藩白老元陣屋資料館の学芸員が実際に現地を案内しながら解説します。

日時：令和5年8月5日(土) 10時00分～11時30分

集合：仙台藩白老元陣屋資料館

申込み：事前のご予約をお願いします

参加料：無料

備考：少雨の場合は実施します

ウトカンベツ川とフシコウトカンベツ

史跡白老仙台藩陣屋跡の指定地には、ウトカンベツ川とフシコウトカンベツという2つの河川があります。フシコはアイヌ語で「古い」という意味のため、史跡の東側のウトカンベツ川に対し、西側のフシコウトカンベツが元々の流れということになります。

白老元陣屋では堀割への導水にフシコウトカンベツを利用していました。一方、ウトカンベツ川の流れも付け替えることで曲輪東側の「ホリナリ」として利用していましたので、仙台藩士が任務に就いていた頃はあまり規模に違いは無かったのかもしれませんが。

「ホリナリ」は昭和57(1982)年に完了した河川改修の結果、ウトカンベツ川から切り離されましたが、現在でも水を湛えており、白老元陣屋が造営された当時の様子をうかがい知ることができます。

白老町に新たな文化財が加わりました

令和5(2023)年6月13日をもって、白老町の有形文化財を新たに指定しました。今回の指定は史跡白老仙台藩陣屋跡が造営された当時の様子を伝える「仙台藩白老元陣屋を描いた絵図面」8点です。

安政3(1856)年から慶応4(1868)年までの12年間、蝦夷地では仙台藩を含む東北諸藩が幕府の命を受け、ロシアなどの西欧列強の進出に備えた警衛を行っていました。白老元陣屋の絵図面は全国で26点が確認されており、白老町ではこのうち8点を所蔵しています。

「仙台藩白老元陣屋を描いた絵図面」からは、仙台藩士が白老を元陣屋造営の地に選んだ理由、造営にあたっての試行錯誤の過程、実際に白老へ派遣された藩士の氏名などを読み取り、史跡の成り立ちを探れる貴重な歴史資料です。

今回の指定により、これまで以上に多くの方々に同文化財について知っていただく機会を設けていきたいと考えています。



白老之圖

第1号 令和5年7月25日

仙台藩白老元陣屋資料館(白老町教育委員会)